

「ビビットグリーン」を用いた ウインターオーバーシードの優良事例

北郷フェニックスカントリークラブ

雪印種苗(株) 南九州営業所

池邨 信彦



はじめに

「1年中緑色の芝生」を可能にしたウインターオーバーシード(以下WOS)は、今世紀中頃アメリカで始められ、現在までに様々な草種・品種間において試験が行われてきました。中でもペレニアルライグラスは、ターフ形成が早いことやターフクオリティが良いという点から、主となる草種となっています。日本においてもこの技術を取り入れられ、ゴルフ場、サッカー場や野球場などの競技場で普及しています。現在国内で流通しているペレニアルライグラスは、耐暑性に優れている品種が主流ですが、西南暖地ではこのような品種を用いても、西洋芝だけでは常緑化が不可能であるため、暖地型芝の上にペレニアルライグラスなど洋芝をWOSする技法が採用されています。『ビビットグリーン』は、ペレニアルライグラスの中では耐暑性が弱く、暖地型芝への移行(トランジション)が良好なWOS専用品種として、各方面から好評を頂いております。

ここでは、一昨年秋から『ビビットグリーン』を使用して頂いております、北郷フェニックスカントリークラブ(以下北郷フェニックスCC)の事例をご紹介します。

1 会社およびコース概要

北郷フェニックスCCは、国のリゾート法第1号として承認され、開発地である北郷町とフェニックス国際観光株式会社で設立され、第3セクター「北郷リゾート株式会社」として運営されています。ゴルフ場は、海拔290mに位置する町営牧場跡地を再開発して造成されました。コース概要は

表1 北郷フェニックスCCコース概要

所在地	宮崎県南那珂郡北郷町	ホール規模	18ホール
開場	平成6年10月13日	コース面積	314.015㎡
グリーンキーパー	金丸 博芳氏	コース設計者	大橋 貞吉氏

表1の通りです。

2 導入までの経緯

北郷フェニックスCCでは、オープン直後よりティフトン芝(フェニックスターフ)の上にWOSを実施されていました。実施当初は、耐暑性のある品種を組み合わせた3種混合種子を使用していましたが、このような品種をWOSに使用すると、トランジションがスムーズに行えないという問題点がありました。そのような中、当社の『ビビットグリーン』を紹介しましたところ関心を持っていただき、品種選定のため当社宮崎研究農場へ来場頂き、芝生試験圃場のトランジション等の特性を確認後、採用いただけることになりました。

3 管理作業内容

播種前作業として施肥は、遅くとも播種の1か月前に終了し、ティフトンの生育を停滞させ、その後バーチカルモアをかけ、モアで刈り高15mmの低刈処理が行われました。プレイへの影響や降雨時の種子の流失を考慮すると、これ以下の刈り高には出来ないと話されていました。

播種は『ビビットグリーン』を主体にして『マンハッタンII』を加えた種子をティーグラウンドに60g/m²、フェアウェイに40g/m²を9月中旬から10月上旬にかけて行われました。ティーはバーチカットを6mmで行い、スパーをかけた後10mmで刈り込み、その後手押しのドロップシー

表2 作業スケジュール

	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6月
ティー		播種	播種								
刈高(mm)	10	10	12	12	12	12	12	12~10	10	8	10
目砂(mm)		2	2								
バーチカット		○	○								
コアリング											
施肥粒状(g/m ²)			30	30	30						20
施肥液肥(cc/m ²)								5			
フェアウェイ		播種	追播	追播							
刈高(mm)	15	15	18	23	23~20	20	20	20~17	17~14	14	14
目砂(mm)											
バーチカット			○								
コアリング											
施肥粒状(g/m ²)	20		30	30	30*	0.6					30
施肥液肥(cc/m ²)											

*一部散布

グーンによって播種されました。また、フェアウェイはバーチカット(10mm)、刈り込み(15mm)、スパーをかけた後播種し、スチールマットによるすり込みが行われました。1日に4~5ホール播種し、レインガンで発芽するまで散水が行われ、発芽確認後(播種約6日後)、次のホールに移るとい工夫がされていました。同ゴルフ場の1997年8月~1998年6月の作業スケジュールは表2の通りです。

4 生育状況

1) ティーグラウンド

- 9月：営業に差し支えないように第1次播種として、ティー全体の2/3に播種し、完了後残りに取りかかる。播種後(写真1)の生育は朝、昼、夕の灌水を繰り返し行うことで6日目には発芽を確認できた。これにより2/3の播種は完了する(23日播種)。
- 10月：残りの1/3は高温、降雨不足のため播種が遅れる(20日播種)。
- 11月：10月20日播種分は、温度低下と乾燥の影響のため発芽が遅れる。追播とシートによる保温乾燥防止で生育回復に成功(写真2)。
- 12月：10月20日播種分、発芽からの養生期間が短いうちに寒さが来たため、やや分けつ不足であった。中旬に施肥。
- 1月：生育停滞期のため草丈の伸長が見られない。
- 2月：1月と同様痛み個所の保護を考慮し、ディボット跡埋め、ティーマークの移動をこま



写真1 播種 (播種量 40 g/m² フェアウェイ)



写真2 播種1か月後 (18番ホール・ティ)

めに実施した。

- 3月：中旬から温度が上がり、生育もよくなった。ベース芝とのトランジションを考慮して、刈り高を下げ始める。
- 4月：例年より気温が高く、ティフトンの萌芽が始まり、トランジションが始まった。
- 5月：連休中から降雨が多く、日照も不足しておりペレニアルライグラスの生育が旺盛である。
- 6月：5月の異常な多雨のため、トランジションがやや遅れ気味であったが、順調に切り替わっている。

2) フェアウェイ

- 10月：播種後の発芽・初期生育共に順調。雨不足が深刻になり散水が行われた。
- 11月：降雨なしが中旬まで続き散水が続けられた。中旬から降雨があり、乾燥で生育が停滞気味であったペレニアルライグラスが好転した(写真3)。密度の薄い部分を中心に追播とスポット施肥、下旬には全面施肥が行われた。
- 12月：生育順調。
- 1月：中旬から低温が続き、23日には積雪を記録した。そのためやや葉色の低下した感があ



写真3 回復したライグラス(18番ホール・フェアウェイ)



写真5 トランジッションの状況



写真4 冬期、ラインがくっきりと浮き上がる

る。

2月：上旬は積雪などの影響で緑度の低下が見られたが、中旬からはペレニアルライグラスと、ラフのノシバとのラインがくっきりと浮き上がるようになり、大変奇麗であった(写真4)。

3月：生育順調。刈り込み回数も増加。ティフトンの萌芽が始まり、この時期からトランジッションに主眼を置き、ティフトンの生長状況に合わせて刈り高を落とした。

4月：例年より気温が高く推移したためティフトンの動きが活発になり、トランジッションが本格的に始まった。

5月：異常な降雨、日照不足のため、トランジッションが停滞気味であった。

6月：5月の異常天候の影響を受けたが、トランジッションは順調に進んでいる(写真5)。トランジッションが容易である『ビビットグリーン』の特徴が出ている。水が多くかかるグリーン周辺はペレニアルライグラスが残っている。

5 おわりに

今シーズン(1997～1998年)、宮崎県地方は台風

による大雨、10月下旬から11月上旬までの降雨不足、年始めの異常低温(積雪)、そして5月連休以降の長雨などの、例年になく天候不順に見舞われ、芝生管理をされる金丸キーパーを始めとする管理者にとっては、大変な年だと思われます。今回紹介させていただきました北郷フェニックスCCでは、この悪天候の中、キーパーの的確な判断のもとに、こまめな作業で対応されていました。このような時こそ、キーパーの腕が発揮されるのだと改めて感じさせられました。途中天候に左右され生育が不十分な時期もありましたが、WOSの見せ所である2月に、「ラインがくっきり浮き上がり大変奇麗」や「降雨後のぬかるみもなく営業的にも大変な強みである」とのお言葉も頂き、1年間取材を行なってきた、『ビビットグリーン』が持つ「トランジッションが容易」、「美しい淡緑色」の特徴を十分に引き出していただいたと思います。また、北郷フェニックスCCでは修景の美化を兼ねて、カート道沿いに菜の花を播種され、お客様から好評を得られています。今年度も面積を拡大し菜の花、大金鶏菊、キバナルピナスなどのミックスフラワーを播種されており、全作業員のこのようなコース内外への細やかな気配りが、北郷フェニックスCCを支えていると感心致しました。

今回の取材に当たり、ご協力を頂きました北郷フェニックスCC金丸博芳グリーンキーパーをはじめ、コース管理課の皆様へ感謝申し上げます。

今後、北郷フェニックスCCに多くの人々の来場があり、繁栄されますことを心より願っております。